伝染性膿痂疹(とびひ)に対する被覆剤使用の検討

呉市医学会　H18年11月19日

医療法人社団たつき会菅田医院
菅田宗樹

対象及び目的

平成１７年１月から１８年１０月まで２２ヶ月間に当院へとびひで受診された全症例２６人２７症例を対象とし、年齢、受診回数、受診期間、被覆材の使用、部位、抗生剤の使用について検討した。

※経過中消毒・ガーゼ不使用

症例一覧

症例	年齢	皮膚病	期間	回数	部位	被服材	抗生剤	転帰	備考
1	6.00	有り	6	5	両大腿	H	ミノサイクリン	治癒	
2	3.08	無	1	1	両下腿	無	ミノサイクリン	不明	
3	5.10	無	1	1	鼻	無	ミノサイクリン	不明	治癒確認済
4	10.11	無	1	1	鼻	無	ミノサイクリン	不明	治癒確認済
5	2.04	有り	12	8	両手	P	セフェム	軽快	８病日抗生剤、治癒確認済
6	4.09	無	2	2	左肘/右手	P	無	治癒	
7	5.00	無	14	9	右前腕	P	セフェム	治癒	９病日抗生剤
8	5.00	無	7	3	両手両足	H	ミノサイクリン	治癒	６病日抗生剤
9	5.00	無	1	1	鼻/右耳	無	セフェム	不明	
10	7.01	無	1	1	両下腿	無	セフェム	不明	治癒確認済
11	5.04	無	6	2	両膝	無	セフェム	軽快	治癒確認済
12	9.11	無	2	2	鼻	無	セフェム	軽快	治癒不明
13	8.03	無	3	3	左肘窩	P	セフェム	軽快	３病日抗生剤、治癒不明
14	1.10	無	3	2	右下腿	P	無	治癒	
15	1.03	無	5	3	腋窩/胸/腹	P	セフェム	軽快	４病日被服材使用、治癒不明
16	8.08	無	1	1	腹部	H	セフェム	不明	治癒確認済
17	8.00	有り	6	4	左下腿	P	ミノサイクリン	治癒	粉薬拒否、２病日抗生剤
18	8.06	無	1	1	背部	Z	セフェム	不明	帰省にて以後受診無
19	4.10	無	2	2	右下腿	P	無	治癒	
20	7.10	無	3	3	左脇	P	セフェム	治癒	
21	4.07	無	4	3	臀部	P	セフェム	治癒	
22	5.10	無	3	2	左肩	P	セフェム	治癒	
23	3.07	無	1	1	鼻/左手	H	無	不明	治癒確認済
24	3.06	無	4	4	左大腿/左膝窩	P	セフェム	軽快	治癒不明
25	0.10	無	9	7	両臀部/大腿	Z	セフェム	治療中断	ﾃｰﾌﾟｶﾌﾞﾚ、粘着不十分
26	13.07	無	2	2	右肘/右下腿	Z	セフェム	治癒	
27	3.08	無	1	3	左足趾	Z	セフェム	治癒	

H:ﾊｲﾄﾞﾛｺﾛｲﾄﾞ P:ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ Z:ZNC

症例まとめ

- 症例の年齢は１０ヶ月から１３歳までで平均５歳８ヶ月
- 皮膚疾患保有者２７例中３例
- 治療期間は１日から１４日間、平均３．７８日
- 受診回数１回から９回、平均受診回数２．８５回
- 受診患者２７例中、被覆材使用者は２０例、他の７例は軽症にて被覆材使用せず
- 抗生剤は使用しなかった者４例、悪化により開始した者４例、使用した者はセフェム系使用１７例、ミノサイクリン６例、途中で変薬した者は無し
- 治癒又は軽快が確認できなかった者は２７例中３例で明らかに中断した者は１例

使用被覆材

H:ﾊｲﾄﾞﾛｺﾛｲﾄﾞ

- 自由な大きさに切って貼るだけ
- 感染創では悪化の可能性があり使用時期注意

使用被覆材

Z:ZNC＝プラスモイスト

- 医療材料で安価、吸収性がある
- 粘着力無く、柔軟性が無く、保険請求不可

使用被覆材

P:ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ

- 吸収性が高く、柔軟性有り
- テープ固定要し、鼻などは固定が難しい

症例２４　3歳６ヶ月　左膝窩

初診時

翌日

ポリウレタンフォーム使用

症例２５　１０ヶ月　臀部

初診時

翌日

５日目

ZNC使用

検討及び考察

- 治癒又は軽快までに1週間以上の症例は5歳以下の若年齢層で年齢は治癒期間に影響すると思われる。
- 皮膚疾患保有者全例で治癒期間が延長し、増悪因子と考えられる。
- 被覆材の使用による有効性は症状軽減や通院回数・期間からあると考えられる。
- 鼻部や臀部などでは物理的及び環境的に被覆が困難で被覆効果は少ないと思われる。
- 初診時に抗生物質を処方しなかった者では治療期間延長した者が多く、抗生剤使用は必要と思われる。

被覆材使用のメリット

☆家で交換も出来、安価である☆
☆痒みなど自覚症状が減少☆
☆直接接触しない☆
☆掻かない☆

↓

うつらない、うつさない

まとめ

1. とびひに対して被覆材の使用は、部位や経過によって使い分けると非常に有効
2. 若年層や皮膚疾患保有者は難治例となりやすく、抗生剤使用と被服材の選択が重要
3. 被覆材の使用によって、症状の軽減、掻破予防、伝染予防となる
4. 外傷だけでなくとびひなどの感染創にも消毒やガーゼは一切不要